

## 大阪体育大学在学生ののための生成 AI 活用ガイドライン

生成 AI (ChatGPT、Claude、Gemini など) は、正しく活用すれば、皆さんの学びを支援し、思考を深めるための有効なツールとなります。しかし、使い方を誤ると、自分自身の成長の機会を損ない、大学や社会からの信頼を損なうことにもつながります。

本ガイドラインは、本学の「生成 AI の利用に関する基本方針」に基づき、遵守すべき事項を示すとともに、その範囲内において生成 AI を適切に活用するための考え方を示すものです。以下の内容を理解し、主体的かつ適切に生成 AI を活用してください。

### 1. 生成 AI で「できること」(積極的な活用のすすめ)

自分の思考を整理したり、新しい視点を得たりするための補助として、以下のような場面で活用することができます。ただし、最終的な成果物は必ず自分自身の理解に基づき、自分の言葉でまとめる必要があります。

- アイデアの整理 (ブレインストーミング)

例: 「このスポーツ心理学の論文のポイントを、専門外の人にもわかるように 3 点でまとめて」

- 論理構成の確認

例: 「卒業論文の構成案を作成したので、論理に矛盾がないか、また不足している視点がないか確認して」

- スキル習得の補助

例: 英語論文の添削、プログラミングの学習、専門用語の解説など。

### 2. 「やってはいけないこと」(禁止事項)

以下の行為は、学問的誠実性の原則に反する不正行為となり、本学の諸規程に基づき指導・対応の対象となることがあります。

- (1) レポートや課題への丸投げ (コピペ)

AI が作成した文章をそのまま、又は一部修正したのみで自分の成果物として提出すること。

- (2) 個人情報や機密情報の入力

教育実習をはじめとした実習やボランティア活動、部活動などで知り得た「児童・生徒・選手の氏名」「怪我や健康に関する情報」「未発表の研究データ」などを生成 AI に入力すること。

- (3) 情報の正確性を確認しないこと

生成 AI が生成した情報を確認せず、そのまま利用すること。

### 3. 大体大生としての「3つの検証ステップ」

スポーツ・健康・教育の専門家を目指す皆さんには、生成 AI の回答を以下の 3 つの観点から検証することが求められます。

(1) エビデンス・チェック（科学的根拠はあるか）

生成 AI が示した理論が、信頼できる教科書や学術論文に基づいているか、自分で確認してください。

(2) セーフティ・チェック（現場で安全か）

生成 AI が提案した内容が、対象者の年齢や体力レベルに照らして安全であるか、スポーツ医学や心理学等の観点から再検討してください。

(3) 身体知・経験との照合（実感に即しているか）

生成 AI の回答を、自分の競技経験や実技授業で得た身体感覚と照らし合わせ、現場で通用する内容かを判断してください。

#### 4. 課題提出時のルール

授業の課題やレポートで生成 AI を利用した場合は、担当教員の指示に従い、必要に応じて文末等に利用内容を記載してください。

- 利用した生成 AI の名称（例：ChatGPT-4o）
- 利用した目的（例：指導案のアイデア出し、文章の構成チェック）
- 自分の関与（例：生成 AI の提案を基に内容を調整した 等）

#### 5. おわりに

生成 AI は過去のデータに基づいて情報を生成するツールです。一方で、スポーツや教育の現場で求められるのは、目の前の人の状態を理解し、状況に応じて判断・対応する力です。

生成 AI を適切に活用しながら、自らの経験や実践を通して、専門性を高めていくことが期待されます。